

クロスカルセンター

これからの時代に果敢にチャレンジできる学生を育てる

目的・趣旨 |

和歌山大学は、第2期中期目標及び中期計画をより具体化した『和歌山大学 2011～13 年行動宣言』の2番目に「学生の学習、研究を支援する図書館を目指します。」と掲げています。その取り組みの一環として、図書館機能の発展的な向上と改革を通じ、学生の教育・研究の中核センターと位置付けるため、大学の中心に位置する図書館を「クロスカルセンター」としました。図書館に学生が集い、図書館が学生を鍛える道場となり、これからの時代に果敢にチャレンジできる学生を育てることを目的としています。「クロスカル」とは、『教養・文化・国際・地域資源・人材などの「ローカル&カルチャー」が「交流（クロス）」することで、新しい価値が創造される場所へ』という思いを込めた造語です。



マルチルームでの授業の様子

壁面2面がすべてホワイトボードになっています。

実施内容 |

まず改革に当たり、本学では学内教員から図書館長を選出するのではなく、図書館業務に精通している学外者を図書館専属の特任教員として招き入れ、改革のリーダーとしました。現在では特任教員を3名配属し、それぞれ改革の役割を担っています。

平成24年度には図書館棟を改築し、既存のシステム情報学センター及び紀州経済史文化史研究所に加え、学生センター、教養の森センター、国際交流ラウンジ、カフェコーナーを設置し、クロスカルセンターとして学生が集う環境を整えました。図書館内にはラーニング・コモンズ、グループ学習室、メディアルーム、マルチルーム、自習コーナー、研究コーナーを設け、様々な学習に対応し、学生の学習意欲を向上させるよう環境を整備しました。特に、マルチルームはアクティブ・ラーニングによる授業の場として提供しており、グループ学習室ではゼミ授業も行っています。これらの授業では図書館の資料を利用しています。

また、学習支援のためにレファレンスコーナーを設け、学習と資料を結びつける水先案内人として特任教員を配置しました。レポート、論文の書き方等の指導、学習相談のためには読み書き相談コーナーを設け、日替わりで多様な研究分野の専門家（本学教員を含む）を相談員として配置しました。

教育への直接の関与としては、図書館教員が教養教育科目「図書館活用法」を開講しています。

実施成果 |

図書館業務に精通している館長が就任したことにより、図書館職員の意識が変化し、より良い図書館を作ろうという職員一人一人の意識改革がなされたと思います。

設備面では、新たに整備したラーニング・コモンズ、研究コーナーは毎日ほぼ満席状態となっており、予約が必要なメディアルーム、グループ学習室も高い利用率です。特に午後からの利用が高く、満室の時間帯も多くなりました。マルチルームは平成 25 年度前期 17 科目の授業に使用され、アクティブ・ラーニングの推進に大きく貢献したと思われます。レファレンスコーナー、読み書き相談コーナーにも常時相談者が訪れるようになりました。

教育面では、「図書館活用法」を受講した学生のレポートに「将来図書館で働きたい。」という記述があったことは、授業の成果の一つと考えられます。

これらを実施したことにより、入館者数は平成 23 年度と平成 24 年度を比較すると約 16% 増加、平成 24 年 4 月～7 月と平成 25 年 4 月～7 月を比較すると約 14% 増加しており、効果が現れていると思われます。

今後の展開・課題 |

平成 25 年度現在、改革は道半ばの段階であり、今後新たに増設される新棟の整備により、クロスカルセンターの完成を目指します。1 階～4 階のエリアごとに目的をすみ分け、階数が高まるごとに学問が深化する構成を計画しています。これには図書館資料の配置も絡めて考え、より利用しやすい環境を目指します。

設備面では、メディアルーム、マルチルームの什器整備、グループ討議、プレゼンテーション等に必要な貸出物品等の充実を図ります。

現在図書館で行われているアクティブ・ラーニングによる授業については、その方法等を学内で共有し、図書館も教育改革に積極的に関与し、学生に対するきめ細やかな支援を実施します。

連絡先 |

和歌山大学学術情報課総務係
〒640-8510 和歌山市栄谷 930
TEL: 073-457-7905

